

効果の上がる学習の仕方を身に着けよう

—学力を向上させ、多様な選択肢のある人生を歩むために—

栃木県立足利清風高等学校

第1学年講演会資料

2014年3月13日(木)

11:00～12:30

開倫塾 塾長 林 明 夫

- ・学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長 (福島市)
- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・マニー株式会社(手術用縫合針製造)顧問
元社外取締役 (本社 宇都宮、現地法人
ベトナム、ミャンマー、ラオス)
- ・特別養護老人ホーム清明苑 理事

Q 1 : 高校での学習の目的は何ですか。高校での学習は、何の役に立つのですか。高校での様々な教育活動には、何か意味があるのですか。

A : (1) 人は何のために学ぶのか、学力を身に着けるのか。「よく生きるため」には学力を身に着けることが大事です。

(2) 「よく生きる」とは何か。2つあります。

(3) その第 1 は、学力を身に着けることは「人生の成功」に結びつくことです。学力を身に着ければ身に着けるほど、「多様な選択肢のある人生を歩むこと」が可能になります。「学力を身に着け、多様な選択肢のある人生を歩むこと」、「自分で選んだ人生の中」で「よく生きること」が学力を身に着ける目的です。

(4) 「よく生きる」のもう 1 つの意味は、「学力を身に着けることで、人様のお役に立つ仕事や社会的活動を行うことができる」、「仕事を通してお客様のお役に立つことができる」、ひいてはそれが「社会のお役に立つこと」につながることです。そのような人が多ければ多いほど、社会は「正常に機能する社会」、「持続可能な社会」になります。自分自身を含め多くの人々が学校で教育を受け、学力を身に着けることは社会の発展にもつながります。

(5) だからこそ、国民は税金を用いて学校教育を支えているのです。国民の貴重な税金を用いて行っている学校教育ですので、高校で学習する内容や科目以外の高校での教育活動で役に立たないものは何一つありません。

(6) 学校での学習はすべて積み重ねですので、高校 1 年生で学習する内容はすべて高校 2 年生で役に立ちます。高校で学習した内容は皆様が高校を卒業したあとに進学をする大学、短期大学、専門学校で役に立ちます。就職して仕事に就いたあともすべて役に立ちます。

(7) 逆に、高校卒業程度の基礎学力が身に着いていないと、大学や短期大学、専門学校での学習にはついていけません。就職をして仕事に就いても、十分な仕事はできません。

(8) 高校で学習するすべての科目を身に着け、また、高校での科目以外の教育活動に積極的に参加してはじめて、大学や短期大学、専門学校での学習がスタートできます。また、就職してからの仕事に必要なことを学習することが十分にできます。



Q 2 : エーッ、高校を出てからも学習するのですか。

A : (1) 現代は知識が基盤になった「知識基盤型社会」です。高校を出たあともより多くの「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」を身に着けなければなりません。コンピュータのスキルは必要不可欠です。

(2) また、現代は国境を越えてものやサービス、人やお金が激しく行き交う「グローバル化社会」です。人種や民族、価値観、宗教、文化、言語、行動様式などを異にする「多様な人々と交流する能力」を少しずつ身に着けなければなりません。自分と異なる考えや言語をもつ人々とトラブルを起こすことなくコミュニケーションを促進することが求められます。「英語」によるコミュニケーションのスキルは必要不可欠です。

- (3)さらに、現代は課題が山積する社会、「課題山積社会」でもあります。地域社会の課題、日本の課題、世界の課題は何かを自分の力で考える「課題設定能力」と、それらを自分たちの力で解決する「課題解決能力」が求められます。最終的には、高い志をもってそれらに挑戦し続ける「自律的に活動する能力」が求められます。
- (4)以上のような 3 つの特色をもつ現代社会の各々に対応する 3 つの鍵となるような能力が求められます。高校を卒業したあとも大学や短期大学、専門学校でさらに学習することが求められます。高校や大学などを卒業し、就職して仕事を始めてからも学習し続けることが求められます。
- (5)多くの方が 105 歳ぐらいまで生きられるようになりました。そこで、人生を 3 つに分けて、35 歳までは基本的な学習を、70 歳までは専門性の高い学習を、105 歳までは人生を充実させる学習をすることが「よく生きる」ためには大切です。
- (6)特に、高校での学習内容は各科目の基礎のまた基礎です。高校でしか学習できません。高校生のうちに全科目ともまんべんなく学習してくださいね。各科目の深い内容は、高校を卒業してからも、一生かけて学習してください。
- (7)就活や大学などでの学習、また、仕事や社会的活動には、高校の学習がすべて役に立ちます。ですから、高校 1～3 年の教科書や参考書、辞書、授業中のノートは必ずとっておき、決して捨てないこと。高校での先生の授業やクラスメートの姿を思い出しながら、高校の教科書やノートを繰り返し、繰り返し読み返すこと、辞書を用いてわからないことばを調べ続けることです。人生のすべての基本は高校の教科書に書いてあります。皆様は、そのくらい大切なことを、今、学習しているのです。



Q 3 : わかりました。では、高校での学習はどのように進めていったらよいのでしょうか。

A : (1)高校の学習で一番大切なのは、「予習」と「復習」です。

(2)ところで、大学や短期大学、専門学校に進学される皆様には、1 年を前期・後期に分けて各科目が用意されています。1 つの科目について、週 1 回 90 分の授業が 15 回行われます。その他に学期末のテストが 1 回分あります。テストの代わりにレポートという科目もあります。各科目とも 200 ～ 300 ページぐらいの教科書が用いられます。1 回の授業あたり 15 ～ 20 ページぐらい進みますので、予習をしないで授業に出ると、初めてなので「よくわからない」ことが多いようです。ですから、大学や短期大学、専門学校では 1 回の授業について 90 分以上の予習をすることが求められます。また、大学や短期大学、専門学校の授業は難しい内容が多いので、新しい内容に入る前に、それまでに学習した内容をよく「理解」した上で「身に付けておく(定着させておく)」ことが必要です。ですから、1 回 90 分の授業が終わったあとに 90 分以上の復習をすることが求められます。

(3)このように、大学や短期大学、専門学校では、授業時間と同じ長さの予習・復習が欠かせません。高校での予習・復習はその予行練習と言えます。

(4) 高校を卒業後に就職して仕事に就いたあとは、学校時代以上に別の意味での「予習」と「復習」が必要です。例えば、仕事をスタートする前には、その日の段取り(だんどり)、手順をどうするか考えなければなりません。週の仕事を始まる前にはその週の、月が始まる前にはその月の、1つの四半期が始まる前にはその四半期の、新しい年度が始まる前にはその年度の予習、段取り、手順を考え、万全の準備をすることが求められます。仕事は準備で結果が決まります。仕事をしながら準備をしたり、このあとどうしようなどと考えたりしていたのでは、よい仕事はできません。学校時代の予習は、仕事の段取り、準備の予行練習のようなものです。

(5) 仕事が終わったあとはどうするか。その日、その週、その月、その四半期、その年度の仕事をスミからスミまで振り返り、足りないところを補う。メモを整理する。頭に入れるべきことは入れる。反省をし、次からは同じ失敗・ミスをしないようにする。これが仕事を成功させる秘訣です。仕事における復習とは、振り返り・反省と言えます。

(6) 高校での復習は、社会に出て仕事をするときの振り返り・反省の予行練習と言えます。

Q 4 : わかりました。では、高校での予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1) 高校から教科書を頂いたその瞬間から教科書をどんどん読み、1日も早く1冊ずつ読み終えることです。

(2) 小説を読むようなつもりで、何日間かけて全科目の教科書を全部読み終え、それぞれの大筋をつかむこと。

(3) 1回読み終えた科目から科目ごとに「意味調べノート」を用意して、よくわからないことばに出合ったら辞書や各科目の用語集を用いて調べる。調べた内容はノートに書き写す。このような作業をしながら、今度はゆっくりと1冊分を読み終えること。

(4) 数学や理科、実業科目などで計算や問題がある場合は、自分の力でノートに解くこと。計算や問題文は必ずノートに写すこと。

(5) 英語や国語、社会、理科などはスラスラとよく読めるようになるまで何回も音読すること。CDのある科目はCDを買い求めて繰り返し聴き、読む練習をすること。

Q 5 : 辞書も使ったほうがよいのですか。

A : (1) 「ことばは力」です。予習で一番大事なのは、よくわからないことばや語句に出合ったら気持ちが悪いと考えて、辞書や各科目の用語集を用いて必ず調べることです。調べたことはノートに書き写し、それを読み返して正確に覚えてしまうことです。

(2) 「国語辞典」、「漢和辞典」、「古語辞典」を大いに活用すること。

* 「古語辞典」でお勧めしたいのは、小西甚一著「基本古語辞典」大修館書店 2011年4月1日刊、1500円です。

(3)「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」を大いに活用すること。

(4)各科目の用語集は、例えば社会なら山川出版社はじめ各社から出版されています。

(5)家に辞書などがなかったら、「足利清風高校の図書室」「足利工業大学の図書館」「栃木県立足利図書館」などで調べること。

*身近なところにある図書館に毎日 1 回以上行き、そこで調べものをすることは大事な能力です。

Q 6 : 予習は何のためにするのですか。

A : (1)予習は、よくわからないことを自分の力ではっきりさせるため、はっきりさせてから授業に臨むためにするものです。

(2)ですから、よくわからないことばや語句を辞書や各科目の用語集、参考図書を用いてできる限り自分の力で調べることが、予習の内容となります。教科書や問題集の計算と問題はすべて書き写した上でノートに解いてみる。そして、どこがよくわからないかをはっきりさせてから授業に臨む。これが予習の目的です。

(3)予習の段階でも、よくわかった、よく「理解」できた内容は「声を出して読む練習(音読練習)」や「書く練習(書き取り練習)」を繰り返し行うこと。予習の段階でも、「理解」したことは完全に身に着ける(定着させる)ことにチャレンジしましょう。予習に遠慮は不要です。どんどん予習してください。

(4)英語は、予習の段階で CD を用いてシャドーイング、つまり CD のほんの少しあとについて音読する練習を何十回も、何百回も繰り返し、最後は何も見ないで言えるまでにする。そうしてから授業に臨むことが最高の「予習」です。予習に遠慮は不要です。どんどん予習し続けてくださいね。

*ただし、教科書がスラスラと読めるようになったからといって、授業中に他人に自慢したり、威張ったりしてはいけません。練習すれば誰でもスラスラと読めるようになるのですからね。

Q 7 : 授業中はどうしたらよいのですか。

A : (1)よくわからないところを「理解」することが授業に出る目的の 1 つですから、「理解」を妨げることは一切しない。

(2)遅刻、欠席、早退、居眠り、ケータイ、ゲーム、私語、ボーッとすること、授業以外のことをすることなどは著しく自分自身の「理解」の妨げになり、時には他の人の「理解」の妨げになることもありますから、決してしない。



(3)先生の目を見て、積極的に授業に臨む。必要なことはすべてノートに取る、ノートにメモをし続ける。



Q 8 : エッ、授業中はノートを取ったほうがよいのですか。

A : (1) 先生が教えてくださったことで大切と思われることをすべて覚えているのは困難ですの
で、手が痛くなるくらいまでどんどんノートに取ってください。

(2) 授業中に必要なことをメモする、ノートに取るができるのは極めて大切な能力です。
皆様は、すべてが中国語やフランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語など
で行われる授業のノートが取れますか。私も含めて多くの方は、全く取れないのではないかと
思われます。ある言語で行われる授業のノートが取れるというのは、極めて高い言語能力
をもっていることを意味します。日本語で行われる授業のノートを取る訓練を高校生のうち
に行ってください。

(3) 大学や短期大学、専門学校に進学してからも、また、就職して仕事をするときやボランテ
ィア活動をするときなどにも必要なことをノートにメモし続けることは極めて大切です。特
に、仕事には決まった教科書がありませんから、必要なことはすべてメモを取り続け、あと
でメモをまとめ、整理し、人との約束を果たすことが求められます。

(4) 「授業中に必要なことはすべてノートに取る能力」を高校時代に身に付けておくことは、
高校卒業後にとても役に立ちます。

(5) ノートで大切なのは、ノートを取ったあとに使いやすい形によく「整理」することです。
また、ノートを繰り返し読み直し、スミからスミまで正確に身に着けることです。ノートは 1
ページ目から読み返す習慣を身に着けると、いつも頭が冴え渡りますよ。試しに今日の午後
の授業から、授業の直前に今までのノートを 1 ページから読み直してください。そのあと
の授業が驚くほどよくわかりますよ。

Q 9 : 復習は何のために行うのですか。

A : (1) 復習には 2 つの目的があります。学校の授業で終わった範囲について「理解」を深める
こと、また、「理解」が不足している内容について自分の力で「理解」することが復習の目
的の 1 つです。

(2) つまり、授業前に予習をしたり、学校の先生の授業を通じて少し「理解」できたことをも
っと深く「理解」したり、先生の授業であまりよく「理解」できなかつたり、授業ではあま
り触れられなかつたりした内容を授業が終わったあとにもう一度自分の力でやり直し、「そ
うか、これはこういうことなのか」と納得する・よくわかるまでにすることが復習の目的の 1
つです。

(3) そのためには、学校の教科書や教材、問題集、授業中のノートなどを先生の授業をお聞き
するようにゆっくりとていねいに学習し直し、「理解」に励むことをお勧めします。

(4) わからないことばや語句があったら、辞書や用語集、参考書などを用いて調べ、調べた内容はノートに書き写す。書き写したノートは 1 ページ目から繰り返し読み直すこと。何回も申し上げますが、「辞書の活用」が学力向上のポイントです。この復習をするにも図書館の活用が大切です。

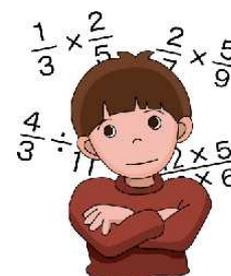


(5) 授業中に一度やった計算や問題をもう一度やり直すこと、授業中にやり残した計算や問題をすべてノートに解いてみることも大切な復習です。

(6) 間違えた計算や問題でどうしても解き方がわからないものがあったら、解答集がついていたらその解説をゆっくりとよく読んで正解と正解に至る解き方や考え方などの「理解」に努める。そして、その正解と説明を赤字でノートに書き写しておく。

(7) その上で、できなかった計算や問題をもう 1 回やり直してみる。

*これが復習のポイントです。



Q10: 「復習」のもう 1 つの目的とは何ですか。

A : (1) 予習や授業、第 1 番目の復習で十分に「理解」できたところまでをスミからスミまで正確に身に着けることです。これを「定着」と言います。この「定着」のためには、次の 3 つの「練習」がとても役に立ちます。

(2) 私は、次の 3 つの練習を「定着のための 3 大練習」と名付けました。福澤諭吉先生が創設した慶應義塾の塾長に小泉信三先生という方がおられ、「練習は不可能を可能にする」という素晴らしいことばを遺されました。「定着のための 3 大練習」も「不可能を可能にする」。そう確信します。

——— スポーツの 3 つの宝 ———

① 「練習は不可能を可能にする」 ② 「フェアプレー」 ③ 「よき友」

——— 小泉信三先生 ———

Q11: 「定着のための 3 大練習」とは何ですか。

A : (1) 第 1 は「音読練習」です。少し大きな声を出して教科書や教材、問題集、授業中のノートをスラスラとよく読めるようになるまで繰り返し読む練習をすることです。

(2) できれば、大事なことは何も見ないでスラスラと言えるようになるまで「音読練習」をすること。特に「○○は・・・だ」という「ことば・語句のことばの意味」、つまり「定義」は「音読練習」をしてくださいね。

(3) 第 2 は「書き取り練習」です。「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになった内容を、今度は何も見ないで「楷書(かいしょ)」、つまり教科書の書体で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。特に大切な語句のことばの意味、定義(「○○は・・・だ」)は正確に書けるまでにしておきましょう。

(4) 英語は、「音読練習」をしてスラスラと口をついて出てくるようになった英文を、「ブロック体」だけでなく「筆記体」でもきれいに書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。筆記体で書く練習をしておかないと、筆記体で書いたものが読めないことがあるからです。

(5) 第 3 は「計算・問題練習」です。なぜそのような解答になるのかが「うんなるほど」とよく「理解」できた計算や問題は、それを見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すこと。答えがパツと出る計算や問題が多ければ多いほど、試験のときに「時間的なゆとり」が生まれ、自分にとって難しい問題や考えさせられる問題をゆっくりと解くことができるようになります。

定着のための 3 大練習

① 「音読練習」

② 「書き取り練習」

③ 「計算・問題練習」

— 定着のための 3 大練習は不可能を可能にする —

25670 ÷ 324



Q12 : 定期試験で 100 点を取る方法がありますか。

A : あります。次の(1)～(4)を徹底的にやり抜くことです。

(1) 教科書が手に入ったら、1 科目でも多く 1 冊すべて読んでしまうこと。

(2) 辞書などを用いて授業の予習をし、わからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと。

(3) 授業中は先生のお話をよく聞き、大切なことはすべてノートを取ること。

(4) 1 つ目の復習をして、授業の内容をもう一度やり直すこと。ノートを整理すること。授業中によく学習できなかったことを自分の力で「理解」すること。

(5) 復習の 2 つ目として、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための 3 大練習」をやり抜くこと。

* テストの 1 ～ 2 か月前からこの(5)をやり抜けば、高校でも、大学や短期大学、専門学校でも、誰でも定期試験で全科目 100 点が取れます。私がお示しする学習方法はすべて時間がかかりますので、試験直前では間に合いません。

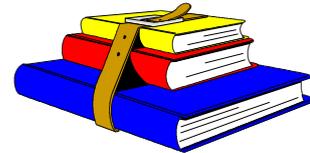
Q13：大学入試や国家試験、資格試験、検定試験などの試験に合格するにはどうしたらよいのですか。

A：(1)まずは、試験に出題される科目の標準的な教科書を、学校の先生の授業をお聞きするよう
なつもりでゆっくりとていねいに一語、一語、正確に読み、「ああ、これはこういうことな
のか」と納得すること、「理解」することです。

(2)そして、教科書を読んでいてよくわからないことばや語句があったら辞書や用語集、参考
書を用いて納得いくまで、よくわかるまで、「理解」するまで調べ、調べた内容はすべてノ
ートに書き写す。書き写したノートは、1 ページ目から繰り返し、繰り返し読み直し、すべ
て正確に覚えてしまうことです。

(3)教科書にある計算や問題、学校で用いる問題集の計算や問題はすべてノートに書き写した
上で解いてみることもお忘れなく。自分で答え合わせをして、間違えたり、よくわからなか
ったりした計算や問題があったら赤でノートに正解や解説を書き写し、なぜそのような答え
になるのかを自分の力で考えることです。教科書や問題集に答えを書き込んでしまうと 2
回目の学習がやりにくくなるので、答えは書き込まないこと。どうしても書き込みたかった
ら、もう一冊同じものを買うことです。

(4)計算や問題を含めて教科書の内容がよく「理解」できたら、「定着のための 3 大練習」つ
まり「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返し行い、教科書の 1 ペ
ージ目から最後のページまでに書いてあることすべてをスミからスミまで完全に覚え切るこ
と。



(5)ここまでの作業を自分の力でやり遂げてくださいね。

(6)いろいろな試験のために予備校や通信添削などを利用するときは、そこで用いる教材を教
科書とすることをお勧めします。その教科書も(1)～(4)のやり方でていねいに学習してく
ださいね。

(7)専門の先生からの授業が聞ける科目については、予習・復習を十分にしながら積極的に授
業に出てください。

Q14：これだけでよいのですか。

A：(1)試験に慣れている人の中には、これだけで十分な合格点が取れる人がいるかもしれませ
ん。しかし、せっかく試験を受けるのなら確実に合格してもらいたいので、「過去問」つまり「過
去に出題された問題」の最低でも 5 年分以上を各々 5 回以上ノートに解いてみることで
す。

(2)「大学入試センター試験」などは、「過去 15 年間に
出題された問題(各年の追補問題も含む)」を 5 回以上ずつ解くことをお勧めします。

(3)1 回分ずつノートに問題を解き、解き終わったら「解説」を読みながら答え合わせをする。
なぜそのような解答になるのかを自分で考え、必要なことはノートに書き写すこと。ここま
では必ず実行してください。

- (4)このあとが大切です。「大学入試センター試験」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、これに加えて「解答・解説の文章すべて」を「大学入試センター試験のための教科書」と考えて、各科目の教科書をゼロから学習する態度で、辞書や用語集、参考書を活用しながら一語、一語ていねいに「理解」に励むことです。
- (5)十分に「理解」したら、次はどうするか。「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」をスミからスミまで「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」すること。
- (6)大学入試センター試験なら、毎年の「追補問題」を含めて15年分×2回、つまり合計30回分を各々5回ずつこの方法で学習すれば、誰でもかなりの高得点が取れます。
- (7)ただし、1日に1回分以上はできませんので、5回ずつやり抜くには最低半年はかかります。ですから、大学入試に出題される科目の教科書の学習は高校2年生までに済ませ、試験の1年前からは今お示しした方法で学習することを私はお勧めします。
- (8)国家試験や資格試験、検定試験なども全く同じです。まずは、試験の半年ぐらい前までに辞書や用語集、参考書などを活用して教科書をスミからスミまで「理解」した上で、「定着のための3大練習」つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返してスミからスミまで身に着ける、「定着」させる。
- (9)次に、公表され出版されている「過去問」の最低5年以上を、できれば5回以上やり抜く。それもただ単に解くだけではなく、「過去問」の「問題文の本文」と「設問のすべて」、「解答・解説の文章すべて」も「教科書」と考え、辞書などを用いてスミからスミまで「理解」する。同時に、「理解」した内容は「定着のための3大練習」を用いてスミからスミまでの「定着」を図ること。ここまでやれば、大体の試験に合格します。
- (10)今から3か月先の6月8日に、2014年度の第1回英語検定試験があります。今、お話しした方法で英検に挑戦してみてください。

Q15：学力の高い人に共通することは何ですか。

A：(1)3つあります。



- (2)第1は、学力の高い人は「自覚をもって学習する」人が多いようです。自分が今なすべきことは何なのか。今、自分は何のためにこの場所にいる、何のために学んでいるのか。今、自分は何をしようとしているのか。自分が今していることの意味は何なのか。これらを自分の力で考え、今、ここでなすべきことに全力を尽くしている人は学習をするときに自覚をもってしますので、学力が高いと言えます。
- (3)「自覚をもって学習する」とどうなるか。何のために学習するのかをよく自覚していますので、これでもかというくらい長い時間にわたって学習してもあまり苦になりません。いくら学習してももっと学習したくなるので、「学習時間」が自然と長くなります。1冊の教科書を学校の授業に沿って「理解」し「定着」させるのにもかなり時間がかかりますが、先生

の授業なしで教科書だけで学習しなければならない場合は、1冊のすべてを「理解」した上で身に着ける・「定着」させるためには100時間以上の時間がかかることがあります。そのような「長時間」の学習に耐えられるのが「自覚をもって学習する人」です。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は「自覚をもって仕事をする人」です。何のためにこの仕事をしているのか、今、この仕事をする意味は何なのかを考え抜いて仕事をする。もっと言えば「自分の社会的使命」を「自覚」しながら仕事をする人は「よい仕事をする人」と言えます。

(4)学力の高い人に共通することの第2は、自分に合った「学習の仕方」を身に着けていることです。いつも、どのような学習の仕方をすればよいのかを工夫し、学習の仕方についても「学び」続けている人は、学力が高いと言えます。

*仕事についても同じです。「よい仕事をする人」は、いつも仕事の仕方を工夫し続けています。例えば、実際になさっている足利清風高校で皆様も熱心にお取り組みになっておられる「整理」→「清掃」→「整頓」→「清潔」→「躰」の「5S」は、「仕事の仕方についての工夫」です。このように、「5S」を含めて「仕事の仕方についての工夫をし続ける人」は「よい仕事をする人」と言えます。

(5)学力の高い人に共通することの第3は、「読書による思慮深さ」を身に着けていることです。では、何を讀んだらよいのか。授業中に先生から紹介された本や、学校の教科書で紹介されている本、学校の図書室や公立の図書館などに置いてある本は、選び抜かれた著者によって書かれた本です。その中から自分の興味・関心のある分野や著者の本で高校生として読むべき本を探し出し、じっくりと読むことを私はお勧めします。

(6)私が高校生のころは、学校の先生に勧められて、「岩波文庫」や「岩波新書」など岩波書店から出版された「文庫本」や「新書本」を毎週1冊ぐらいずつ読んでいました。

(7)あまりよくわからないものもありましたが、「岩波文庫」本を讀んでこういう考えもあるのかと思ったり、「岩波新書」本を讀んで現代の世の中はこのようになっているのだと考えるたりもしました。

*読書の醍醐味(だいごみ)とは何か。「時」や「空間」を「超えた」「著者との対話」、「時空を超えた著者との対話」だと私は考えます。



(8)読書によって得られるのは思慮深さです。「読書による思慮深さ」を身に着けている人はものごとを深く考えますし、身に着けている「語彙(ごい)数」が多いため読む力が高いと言えます。教科書や試験問題を含め、文章を讀み解き「理解」することができますので、自ずと「学力の高い人」となります。

(9)読書と同時に、「新聞を讀んで自分で考える力、批判的思考能力を身に着けている人」も「学力が高い人」に多いと思われます。「新聞は社会の番犬(watch dog)」「社会の問題点・社会の取り組むべき課題はここにあると読者に知らせることが新聞の社会的役割」と考えて命を懸けて記事を書き続け、それを編集し、発行し続けるのが新聞記者、新聞社の社会的使

命です。

そのような新聞が、毎日、日本全国の家庭に届けられます。日本の新聞は素晴らしいもの、日本の誇るべき文化の1つです。

是非、皆様も1日に30分以上は新聞を1面からなめるように読み、今、地域や日本、世界ではどのようなことが起こっているのか、これからの地域や日本、世界はどうなるのかを自分の力で考え、批判的思考能力を養い、果たしてこれでよいのか、ではどのようにしたらよいのかを自分の力で考えてくださいね。

Q16：最後に、林さんの好きなことばを紹介してください。

A：(1)「ブルドッグ魂」

(2)「練習で泣いて試合で笑え」

(3)「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心に取り組もう)

(4)「会った人は皆友達」

(5)「離見の見(りけんのけん)」(舞台上で踊っている自分を離れている客席から見ること)

(6)「教育ある人とは、学校を卒業したあともずっと学び続ける人」

(7)「一生勉強、一生青春」

(8)「健康第一」(心の健康、身体の健康)

御清聴ありがとうございました。



感謝

